

- 1・**霞**（向う払い）
 - ・立膝から始動、前敵に抜き付け（第1敵を倒す）
 - ・直ちに右手甲を裏返し、**第2の敵の首**を右側より水平に切る。更に上段より切下す
 - ・他流では前方1人の敵の想定もある（右側より水平に切るのは**敵の向こう脛**）

- 2・**脛囲**（柄留）
 - ・中傳虎一足と同じ意義。右足へ切り込んでくる刀に応じる**動作が中傳より速くなる**
 - ・古傳の柄留は敵が抜刀せんとするその拳に抜き付け、その動作を封じると言う意味

- 3・**四方切**（^{しすみ}四角）
 - ・四面多数の敵に囲まれたときの刀法
 - ・刀をやや右前に抜き、後の敵の**左胸部刺す**
 - ・受流しに左より刀を振りかむり、90度右に廻って右の敵を切り
 - ・直ちに180度左回り（刀を右より受流しに振りかむりながら）、左の敵を切る
 - ・更に90度廻って正面敵の**真向**から切下す（敵の位置によって正面とまらない事も）

- 4・**戸詰**（^{みすみ}三角）
 - ・自分の前左・右に戸<襖>があり、その陰に敵が潜んでいる
 - ・敷居ごしに、右足を一步右斜め前に踏み出し、抜き打ち
 - ・直ちに、右側より受流しに振りかむりながら左右の膝替え左の敵を切る（**雪折れ**）

- 5・**戸脇**（^{むこうづめ}向詰）
 - ・自分の前右戸陰に敵一人、左側斜め後にもう一人の敵（**戸詰の様な想定もある**）
 - ・右足を一步右斜め前に踏み出すや（敷居上・敷居越し）、刀を水平に抜き**左の敵の左肩**を刺し
 - ・そのまま右に旋回し、右戸陰の敵を上段より切下す

- 6・**棚下**
 - ・棚の下、縁の下など天井の低い場所に自分が居て、その低い所を出た前方に敵
 - ・頭と上体を出来るだけ低く、右足を大きく前へ出しながら抜刀。**目は前方につける**
 - ・左膝を右踵に引寄せながら、左肩側より刀を背負う様にかむり、体を起こしながら一步踏出し、正面の敵を切下す
 - ・状況により、右足を後に引いて刀を抜く場合、低い所の距離が長い場合、刀を背負った姿勢で一、二歩進む事もある

- ・切下しの時自分の頭の上で小さい円を描くように
- ・暗い所や、闇夜にて前方の敵を透かし見る心持で行う

7・両詰

- ・両側に障害物あり、刀を自由に抜けない想定
- ・刀を右前方に抜き、右拳を一転刀の柄を縦に返し刀先を前方に柄頭を臍下に持ってきて（晴眼の様に構える）
- ・右足を踏出すと同時に、前方敵を諸手にて充分に突く
- ・刀を引き抜くと同時に振りかむり、敵を真向から切下す
- ・血揮いは壁添いと同じく、両側が狭いので小さく行う

8・虎走

- ・中腰、前屈みの姿勢（虎が獲物を追う時の様に）
- ・柄を右腰につけ、逃げる敵を小走りに追いかけて、切り間に入った時上体を起こし
- ・同時に右足を踏み込んで敵の上腰に抜き付け
- ・左膝を付いて上段から敵を切下す
- ・血揮、納刀しつつ右足を左足に引寄せ、柄を右腰に引寄せながら半蹲踞となる
- ・半蹲踞の姿勢で、刀を二寸ほど納め残したとき、他の敵が正面より攻撃してきた
- ・小走りに後退しながら切り間合いに入った時、前動作の様に抜き付け、左膝を着いて切下す